

北海道鉄道本部が春闘要求書 月額 34,000 円の賃上げなど 75 項目を要求

北海道鉄道本部は2月10日に、新型コロナウイルスの感染予防に神経を使い、マスクや消毒液の購入で家計支出も増えて日々の生活に疲弊している社員と家族の苦勞に報い希望の光が差し込むような賃金引上げなどを求めて「2021年春闘要求書」をJR北海道に提出しました。賃上げ要求は月額34,000円で、諸手当の引き上げのほか「50歳以上の賃金改善」「定年制、退職給付の改善」を求めるとともに、「月1回のPCR検査を接客が伴う社員への実施」など職場要求44項目を求めています。また、雇用延長制度と非正規労働者の処遇改善では、2020年4月からの法改正をふまえた「同一労働・同一賃金」について特に「エルダー社員への燃料手当支給」を柱とした要求をまとめ、安全とサービス向上についての要求など全体で75項目となっています。

2月の「健康相談会」に18人

函館支部 函館市と北斗市の5会場で実施

函館支部は、2月5・6・7日の3日間、5会場（函館市3会場、北斗市2会場）で「健康相談会」を実施しました。相談者は18名で、相談内容はアスベスト9件、じん肺1件、振動病6件、難聴3件でした。相談会後の検診予定はアスベスト7件、じん肺1件、振動病4件、難聴2件の合計14件となり、その中には振動病と難聴の2障害という人も1名いました。アスベストとじん肺については検査予約の日程を入れ、振動病と難聴については職歴作成をしたあと順次検査予約をする予定で準備を進めていきます。

函館支部では1月の相談会で15名の相談者があり、2021年冬の相談会（1月と2月）の相談者の合計は33名となりました。

JR北海道「安全に関する労使合同会議」

1月27日に第29回目となる「安全に関する労使合同会議」がJR北海道本社の会議室でコロナ対策を講じて開催されました。建交労北海道鉄道本部からは竹田委員長と最上書記長が参加しました。今回の議題は12月に千歳線で発生した保線作業中の退避誤り事象で、事故の原因は列車の遅れが発生している中で運転状況確認を失念し思い込みにより作業を開始したことにあります。作業員は列車の接近に気づき退避しましたが、工具が作業箇所に残ったままとなって車両に接触しており、一歩間違えば触車死亡事故や列車の脱線など重大事故につながるものでした。会議の冒頭に島田社長から「新型コロナウイルス感染者が北海道で確認されてから1年を迎えるが、気の緩みや慣れが出ていないか？エッセンシャルワーカーとして公共鉄道を運行しているという自覚をもって今後とも取り組んでいきたい。また、石勝線トンネル事故からも10年を迎えるが事故を知らない社員もおり、事故から学んだ教訓と反省を活かさなければならぬ」と述べられました。これらのことは最も大切なことですが、度重なる保線作業中の退避誤りが発生するたびに繰り返される問題の陰に何が潜んでおり障害となっているのか、一歩踏み込んだ労使の意見交換が必要だと言えます。